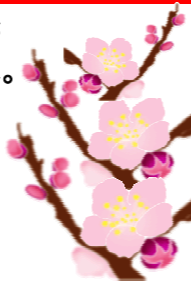


「立春」も過ぎていよいよ三月・暦の上ではもう「春」なのにご当地はようやく降雪期が終わり、それでもなお積雪が2m近くもある状態です・春はまだ先ですね。行政も年度末を迎えますが、来年度の「補助金制度」の内容は通年通りなのか気になるところです・知人の方の話では、ほぼ例年と同じ予算が議会を通過したとのことですが、詳しい内容はまだハッキリしません・情報が確認され次第4月号でまたお知らせしたいと考えています。



# 瓦版 3月号

発行 (株)カネマタ工務店  
TEL 025-792-2560  
FAX 025-792-7102  
http://kanematak.com



## 卵と牡蠣のオイスターソースがけ

【材 料】 牡蠣(むき身) 8個 溶き卵 4個分  
A 塩・コショウ 少々 「Cook Do」オイスターソース 大さじ2  
片栗粉 適量 ごま油 大さじ2  
キャベツ 2枚(100g) 万能ネギ(小口切り) 適量  
酒 大さじ1



### 【作り方】

- 牡蠣は流水でふり洗いし水気を拭き、Aをふり片栗粉をまぶす。キャベツの葉は水洗いして1cm幅の短冊切りにする。
- フライパンにごま油を熱し、1の牡蠣を入れて両面焼き色をつけ、キャベツ、酒を加え蓋をして蒸し焼きにする。
- 牡蠣がふっくらとしたら溶き卵を加え、大きく混ぜて半熟状になるまで火を通す。
- 器に盛り「オイスターソース」を回しかけ、万能ネギを散らして出来上がりです。

調理時間:約10分 エネルギー:189kcal 塩分:1.9g 野菜摂取量:25g / 1人分

※まだまだ旬の「冬牡蠣」・鍋物でも洋風でも、中華風でもおいしくいただけます・ご利用ください。

## 忘れられる技術 「石場かち」

建築基準法(昭和25年法律201号・昭和27年4月1日施行)の定めにより、全国各地にあった伝統的な家屋の土固めの方法である「石場かち」は姿を消してしまいました。こうした方法や作業に伴う風俗・習慣、労働唄等は次第に忘れ去られています・いいのか？悪いのか？

昔は家を建てる時、土台となる石(石場石)の上に柱を立てて骨組みを組立てました・その石場石を搗込む作業が「石場かち」です。石を搗込む際はドーヅキと言う直径50cm高さ約2.5mの松や樺の丸太に、井桁のように根取り木を縛付け、上下の端から搗縄を四方に取り、丸太の頭頂には幣束・神・鉦の削り葉を付けた道具を使いました。

作業時、搗縄には村中の老若男女がすがり、威勢のいい若者達が根取り木に掴まりドーヅキを持上げ、石場石を搗込む舵取りの役目をします。搗縄はドーヅキが倒れないよう安定させる役目があるようです。また、この作業の時に唄われる調子取り唄を「石場かち唄」といい、私も「上棟式」の時に唄います。

他に、今はクレーンを使うようになりましたが、昔は「天木」を使って重い材料を持ち上げ、建物を組み立てた技術もあったように聞いています。



資料引用:十日町市教育委員会H・P

## 「雛祭り」・・・のあれこれ・・・

雛祭り(ヒナマツリ)は日本において女子の健やかな成長を祈る年中行事です。雛人形や桃の花を飾り、白酒や寿司などの飲食を楽しむ節句祭りです。雛祭りが何時頃から始まったのかは判然としませんが、平安時代の京都では既に貴族の子女の雅雛「遊び事」として行われていた記録があります。また当時、紙で作った人形を川に流す「流し雛」があり、雛人形は災厄除けの「守り雛」として祀られる様になった。

「雛人形」は宮中の平安装束を模しており、女雛の髪形は「大垂髪(おすべらかし)」と「古典下髪(こてんさげがみ)」があります。前者は平安時代からの垂髪形式が鎌倉・室町を経て、江戸時代後期に完成された髪形でピン(前髪部分)を大きく張った髪形になり、比較的に新しい髪形と言えます。

後者は「割り毛」とも呼ばれ、平安時代では長い黒髪が美人の条件とされていたため髪を全て後ろに流しわずかに垂した両頬の髪を切りそろえた髪形です。この髪形は結髪の技法が難しく結髪師の技量が問われるため現在は希少となっています。

5月5日の「子供の日(端午の節句)」が祝日になっているのに、なぜ「雛祭り」が祝日でないのか・江戸時代には「五節句」の一つとして「祝日」として確かに存在していたようです。しかし、明治6年に「新暦」が採用されたことにより「五節句(=雛祭り)」が祝日廃止となり、さらに「国民の祝日」性より「皇室の祝日」色が濃くなったためのようです。しかし、戦後になって新たに祝日を作ろうとする動きが起り、寒冷期の3月3日より全国的に温暖な時期の5月5日の「端午の節句」と一緒にして、この日を「子供の日」とする案が採用されたからのようです。



## 浦佐 毘沙門堂 「裸押し合い祭り」

3月2日・3日はお隣の「南魚沼市」の浦佐にある「毘沙門堂」の「裸押し合い祭り」が行われます。日本の三大奇祭の一つに数えられ、約1,200年の歴史があるそうで、近年「国の無形民俗文化財」に指定されたようです。

今から約1,200年前、坂上田村麻呂がこの地にお堂を建立し、守護仏の毘沙門天を祀り、祝宴の中で歌い踊って士気を鼓舞した事に起因すると伝えられています。かつては、正月3日に行われた「御開帳」に誰よりも早く守護仏を参拝しようと押し合う熱さと、除災招福を願う心から「水行」をしてから参拝することが混じり合い、次第に裸になる者が多くなり、現在のような風習になったようです。「サンヨ、サンヨ」の掛け声とともに押し合い、その上に水を掛けられそれが湯気となって立ち上る堂内は、勇壮かつ圧倒される迫力だそうです。

また、重さ30kgの大ローソクが灯される事から「大ローソク祭り」とも呼ばれます・本町通りや山門の上り口には様々な露店が軒を連ね、中でも「カジカ酒」が名物と聞いています。

市のH・PIによれば一般参加可能(男子に限り)で、その場合はさらし等は各自で用意とのことですが・



3月 弥生 2017年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
大安	赤口	先勝	友引	先負	仏滅	大安	赤口	先勝	友引	先負	仏滅	大安	赤口	先勝	友引	先負	仏滅	大安	赤口	先勝	友引	先負	仏滅	大安	赤口	先勝	先負	仏滅	大安	赤口	
三隣亡		上棟吉日	上棟吉日	地鎮祭 上棟吉日		地鎮祭吉日		地鎮祭吉日	地鎮祭 上棟吉日	上棟吉日		地鎮祭 上棟吉日	上棟吉日	地鎮祭 上棟吉日	三隣亡	上棟吉日		地鎮祭 上棟吉日	赤口	地鎮祭 上棟吉日	地鎮祭 上棟吉日	地鎮祭 上棟吉日	地鎮祭 上棟吉日	地鎮祭 上棟吉日	地鎮祭 上棟吉日	地鎮祭 上棟吉日	地鎮祭 上棟吉日	三隣亡	地鎮祭 上棟吉日		